

付録1：記述による回答から

アンケート中5項目については自由な記述による回答を求めた。本文でも述べたように、寄せられた回答は、多数、多量であった。従って、その全てを付録として掲載することは紙面の都合上不可能であるので、各世代から数人分ずつをここに紹介する。

明らかな誤字の訂正、若干の体裁の変更や文章の省略、などは行ったが、原則として原文の通りに掲載した。

それぞれの質問文は、→のように略記して示している。

☆東京女子大学のキリスト教主義について、特に印象に残っていること、覚えていることがおありでしたら、書いてください。→ キリスト教主義の印象や記憶

☆東京女子大学在学中は何に打ち込んでいらっしゃいましたか。
→ 打ち込んでいたこと

☆在学中に経験したことで特に印象に残っていることは、どんなことですか。
→ 印象に残っていること

☆東京女子大学で学んだということは、あなたの人生にどのような影響を与え、どのような意味を持ってきたとお考えですか。→ 人生に与えた影響や意味

☆その他ご自由に、東京女子大学の後輩に伝えたいことなどをお書きください。
→ 後輩に伝えたいこと

第一世代（1920年～1929年卒業）

高等学部卒 89歳

印象に残っていること・印象に残っていること・後輩に伝えたいこと

学長を囲んで荒川先生、石村先生、高橋穰先生、その他御名が思い出せませんが、御立派な御方が大勢いらっしゃいました。

学長安井哲先生の高貴な御人格に接し得たことをご紹介します。当時は学長が大方の学生の名を憶えて下さった結構な時代でした。あたたかい御眼差しで相手の顔をお見つけになりながらまるでお友達に話すような、淡々としたお言葉でおはなしになりました。よく英語をおまぜになったけれど、それはごく自然で、思いを発しなされるのに英語の方が適当なお言葉がすぐ出て来るからだ、ということがよく分かりました。シンプルな束髪に和服をきちんと召した御姿には女性ながら古武士の風格がおありだ、とお見上げ致しました。年をとり記憶がさだかでなくなりましたが、こういうことを憶えております。財政困難にもかかわらず、生徒の父兄に寄附をつのることは絶対になさいませんでした。ついにそれをなさらなければならなかったときの、先生の悲痛な御言葉に感動

したこと…これは私の在学の終わりごろに（昭和はじめ）おこった事実だったと思うのですが私の記憶ちがいでしょうか。結局昔の思い出ばかり、直面しておいでになる問題の解決の御助けになるようなことは何ひとつ申し上げられません。年齢のせいと御ゆるしを。しかし申し上げましたように、ろくに礼拝に出席もしない、生意気な生徒が知らぬ間にキリスト教精神の恩恵を受け、今日の平安な生活の基礎を築かせていただいていたのでございます。真の意味の宗教精神が根底になれば、教育は無意味だと存じます。

高等学部卒 87歳

キリスト教主義の印象や記憶

朝の礼拝に出席いたし、一日のはじまりと気持ちよく勉強ができました。

印象に残っていること

新渡戸稲造先生、安井てつ先生のお話を伺ふことが出来、いつまでも心に残って居ります。

人生に与えた影響や意味

よき師と、なによりよき友を得たこと。特にクラスの仲間とは年に一度は集り、卒業以来今日まで、戦争中も戦後の大変な時代にも助け合ひ、はげまし合って過ごしてまいりました。皆高齢になり、段々に亡くなられ仲間も半分となり、淋しくなりました。

後輩に伝えたいこと

私どもの時代は戦争に会い、皆それぞれ大変な毎日でした。世界中の人々が仲よく平和に暮らせます事を願って、若い世代の方々に希望を託します。

第二世代（1930年～1939年卒業）

英語専攻部卒 88歳

キリスト教主義の印象や記憶

毎朝始業前、チャペルの朝の礼拝に出席して短いお説教をして下さる先生方のお話を必ずお聞きしました。安井先生、石川林四郎先生、荒川先生の素朴な温かい包みこんで下さるようなお人柄やお話しぶりに想いを深くすることが度々ありました。懐しい限りです。

打ち込んでいたこと

地方の県立高等女学校で英語は週三時間、それ以上は僅か数冊の参考書のみ、外人の顔を見ることも稀な環境から、何を間違えたか外人教師の一番多い東京女子大学の英専に飛び込んだのですから、一番困ったのが外人の先生の授業でした。時間中は全身を耳にして内容の理解に苦慮しました。更に教科書以外の英語の原書を義兄から借りたり、自分で搜したりして、読み続けたのも、教えるようになってからも相当役に立ったように思います。

印象に残っていること

1.class ringをつくって安井先生からお叱りを受けたこと。2.聾啞学校見学。4年生の

頃だったと思いますが、本学理事長のDr. ライシャワー夫人のミセスライシャワーがおつくりになった聾啞学校見学に全員を連れて行って下さったのです。先輩のお二人が教えていらっしやいましたが、その教え方を初めて見学して感激涙ぐみました。3. 日本人の英語の主任教授石川林四郎先生を井之頭公園、石神井公園に連れ出し、厳格で通っていた先生のやさしいお心にふれ、「オジャン（お父さん）」と云うニックネームを奉ったのも私達が最初の最後かも知れません。4. 新渡戸稲造先生が外国から帰られると軽井沢から御上京になり、本学へ前ぶれなしにいらして「ここへ来ると清々しい気持ちになれる」と喜んで頭をなでたり、「うちの娘たち」と呼んで下さったこと。

人生に与えた影響や意味

東京女子大学で学んだ最高の喜びは安井先生に「じか」に御薫陶を受けることが出来たことです。商家に生まれ家族10人従業員5人の大家族に育った私は家を離れて入った寮が一人部屋。夜遥か遠くを通る電車の音に胸をしめつけられ、いつの間にかポロ涙している、これが私の女子大生活の始まりです。加うるに、肉も魚も食べない偏食。こんな私が無事に卒業出来たのはひとえに寮監であり、献立をつくられる田中先生のご配慮のおかげと感謝の言葉ありません。寮の生活にも馴れ、お友達も出来て食後の自由時間は目を妨げるもののない武蔵野の自然の中を散歩に談笑に西に沈む崇高な夕陽を身も心も伸び伸びと心ゆくまで眺めたものでした。学校のクラスでも心を開く友に恵まれ、卒業以来66年在学期間4年を加えれば70年に及ぶ姉妹に勝るおつき合いを続けています。困った時にはお互いに相談し、慰めたり力づけていただいたり、持つべきものは心の友と温かい交わりを結ぶ有難さ。もうそうした友も残るところ僅かになり、お互いにこの世の別れも御心のままにと思えるように心の準備をしなければ…と心掛ける年になりました。生まれも育ちもちがう友、それぞれの長所も短所も認め乍ら、今日まで来られた幸福を感謝する昨今です。

後輩に伝えたいこと

現在の社会状況を眺めますと、すべてが混沌としていて捕らえ所がどこにあるのか分からぬような気がします。政治も経済も外交も問題が山積です。個人の生活環境、生活感情も戦前に較べると格段の相違です。学校の問題を取り上げてみても、その相違がはっきりと分かります。女子のみの長期の大学、どこの大学も学力の低下、入学希望者の減少、生活態度の俗化（帰宅時間の遅いこともその一つ）等、目に余るものがありました。学校当局でも心配していらっしやるのではないのでしょうか。共学の大学では在学中にパートナーを見つけるチャンスに恵まれているのは事実のようです。それ故に女子の応募が多いのでしょうか。学力はどんなものなのでしょう？ パートナー問題は横に置いて教科書以外の書物に関心に向けてみると云うのは如何？ 自分が興味をもって読んだstoryが映畫化されたら、飛んで行って見たら耳の勉強にもなるし、ストレス解消にもなり、一石二鳥と云うオマケもつきます。一人で読むのがオックウならグループで廻し読みをする。自分の番に当たった箇所は英語で簡単に筋を発表するのも発表力をつける効果があるかも知れません。さてもう一つ、部で相応しい男子校の部へ働きかけて合同ハイキング或は単なるトークミーティングを一ヶ月か二ヶ月に一回か二回の割合でつくり、お互いに知り合うチャンスを持つのは如何？ 注意することはこのmeetingはあくまで明るくさわやかなものであり度い。回が重なるにつれて親密になれば願ったり叶ったりと拍手を送ってあげようではありませんか。

大学部英文学科卒 87歳

キリスト教主義の印象や記憶

朝の朝礼で讃美歌をうたう時のよろこび。

打ち込んでいたこと

Mrs. Iwamotoのお講義（英文学，英文法，英作文），古在先生のお講義（倫理）に感激する。

印象に残っていること

私共の学生時代に故石幡五郎先生を顧問として「杜の会」が発足し，若者の胸に多くの夢を抱かせた。その一部は夢として消えたが，卒業後もしばらく続いたものにコーラス部があった。 a) 在学中故鳥居忠五郎先生をコンダクターとしておこがましくも日本青年会館，日比谷公会堂でコーラスをする。映画会ともあわせ，「杜の会」の資金を得ることにした。また，ささやかながら，登校前に寄宿の台所を利用させてもらい，フルーツサラダをつくり此をランチタイムに売って収入の一部とする。 b) 体育館前に池をつくる。今は故障で水も乾ききったと聞いているが，そこを背景に野外劇が行われた。 c) 校庭の南西隅に故今園先生を顧問とし，万葉植物園がつくられた。 d) 故石川林四郎先生を顧問としシェイクスピアガーデンを作る計画もすすめられたが，此は実際に植物を植えるところまでは進まなかった。夫々の草や木がシェイクスピアのどの作品のどの箇所に出ているかを明示するカードを作る作業まですすめ，その成果を女子大図書館におさめた。 e) 故大賀一郎先生，2千年前の蓮の実に花を咲かせられたという有名な蓮の実博士は「聖書の園をつくる」よう熱心にすすめられましたが此は残念乍ら実現に至らなかった。会員数減少のせいもあった。 f) その間パンフレット「杜」1号，2号を発刊する。 g) 様々の植樹をする。

人生に与えた影響や意味

a) 「凡そ真なるもの」を求める精神が強められた。 b) Service and Sacrificeに満ちた人生をと希望するに至ったが，年令と共に体力が衰えるとまわりの人の世話になり，ただ茫然と我が身のために過ごすようになった今日この頃のことを恥しく思っている。 c) 旧満州国より帰還直後，先輩，クラスメイト，Mrs. Iwamotoや外国から再び日本へと帰られた外人の先生方から物心両面で多大の温かいご援助を受ける。国と国との争いを越えたところに在る愛の精神に感激し，改めて国際平和の意味に思いを馳せる。

後輩に伝えたいこと

a) 安井先生が，御退職後のことですが大学のために財務委員長としてお立ちになった時の悲壮なお気持ちは当時まだ若かった私にもお察しするにあまりあるものがうかがえました。女子大のために御自分の総てを捧げようとされたお姿だった。 b) 何十年か前のことになるが，東京麻布の国際文化会館で，私共英語専攻部昭和6年度の卒業生が，故Mrs. Iwamotoをお招きして集った。その際にも「日本における今後の女子のみの大学の存在」についてのお話が出たことを思い出す。

国語専攻部卒 84歳

キリスト教主義の印象や記憶

私の母がクリスチャンであるので，安井先生が私まで無条件で信用していられた。クリスチャンに対する思い込み・偏見（クリスチャンなら良い人だという）があったように思う。

打ち込んでいたこと

万葉集とか唐詩選、芭蕉等、詩歌に夢中になっていました。その他、佛教の勉強やドイツ語等（番匠谷先生）よけいなことばかりしてしていました。また哲学にかぶれていました。

印象に残っていること

私はクリスチャンではありませんでしたが、当時はやりのマルクス主義はきらいで、よく共産主義者と論争していましたが、でも親友がその仲間に入り逮捕され退学になったときは非常にショックでした。自分の好きな勉強ばかりしている自分より、社会を良くしようとしたかっている友人の方が立派であるように思えたのです。今考えてみると彼女等も東女の精神を違った方法で実行しようとしたのではないかと思います。在学中は東女のよさがわからなかった。

もっと万葉の園等の“杜の会”に協力すればよかったと思います。

人生に与えた影響や意味

東女で学んだことと関係があるのかどうか、私は昔から思ったことをはっきり言い、正しいと思ったことは実行するという性質でした。そのことは選挙運動などにはあまりプラスにならなかったのですが、しかし最後には真実が認められ、常識はずれでぬけているのに人々から信用していただきました。安井先生に直接学んだ私は今でも安井先生のいわれた“サムシング”を求めて生涯を歩いたことに感謝して居ります。

後輩に伝えたいこと

私なども偶然東女に入ったのですが、多くのすばらしい先輩後輩と知り合い、大らかで一本気で真実な、あの校風の影響を受けたことは本当に幸せだったと思います。皆さんも本当に幸せだと思います。感謝して世の中のためにつくして下さい。

国語専攻部卒 84歳

キリスト教主義の印象や記憶

特になし。雰囲気が非常によかった。

打ち込んでいたこと

杜の会のコーラス。一時期は植物（万葉植物園の事）。バラのアーチや藤棚と築山のあった小さな池など、校庭の心配りのある美しさに感動しました。よく後ろ手に腕を組んで黙々と瞑想しつつ歩いておられるライシャワー氏（理事長）のお姿を授業中の二階から見ることがあり、本館が出来てそのデザインに校庭の松とすすきが取り入れられている事に今でも感動しています。魂の形成に大きな影響を与えられたと思い感謝しています。

印象に残っていること

先生方が皆様誠実でよかった事。又皆様が、この学校の職員室の雰囲気がどこよりもよく、来るのがたのしい、安井先生の御人格だと言っておられ、嬉しく誇らしく思ったものです。

人生に与えた影響や意味

常に理想を持って世に流されない、強い意思を教えられたように思います

後輩に伝えたいこと

今の若い人とは言葉も通じないのではと危惧の念を抱きます。人類共通古今を通じて変わらぬ真理を追求してほしいと思います。

数学専攻部卒 81歳

キリスト教主義の印象や記憶

礼拝をもって一日の業をはじめることがまことに尊い事に思われました。

打ち込んでいたこと

通学でしたが、朝の礼拝には殆ど休まず出席しました。スポーツ（バスケットボール、ホッケー）放課後はそれらに熱中していました。

印象に残っていること

安井先生が礼拝の司会をなさいます時必ず御祈りの最後に「全国にある卒業者のために」祈られました。先生はいつも「卒業生」と云われました。その時はあまり気にとめませんでした。結婚後夫のつとめの関係で全く知人の居ない福岡に移り淋しく頼りない思いで居ります時、「今日も安井先生が「私」のために祈って下さる」という確信が常に私を強く立たせて下さいました。後年（1949）受洗出来るように導かれた根源はこの安井先生のお祈りであったと信じます。そして先生は今も米国にあって「全国全世界の卒業者のために」祈っていて下さることを信じます。なお先生はいつも卒業生と言われず、卒業生と言われたお声が今も耳に残っています。

人生に与えた影響や意味

上記のように東京女子大学で学んだ事が現在の私を形作って居ります。弱く頼りない「キリスト者」ではありますが、召される日まで「感謝と祈り」の日々を送りたいと思えます。43年間の福岡生活の後、ここに移って参り「どうしても一度夫を女子大に連れて行きたい」と願って居りましたが5年前（1991年）の園遊会に二人で行く事が出来、私を育ててくれた「東京女子大学」を夫が見て大変感動して呉れました。女子大の教育は今も生きて働いている事を信じます。

英語専攻部卒 81歳

キリスト教主義の印象や記憶

Service & Sacrificeの精神がまだまだ続いています。（儒教的しつけが浸み込んでいるせいもある？）

打ち込んでいたこと

セツルメント（YWCA）での活動。スポーツ（ホッケー）。美術史

印象に残っていること

規則づくめの女学校から女子大に入学して、学校の在方の違いに開眼させられた。女学校だけで終わらせたら、キャンパス生活を通して自分を律しながら、学習する楽しさが分からなかったであろうと、入学の喜びを味わいました。外人の英語授業に始めて接してさっぱり分からず泣きたい思いで、やめようとしたほどでした。美術史の教師の授業にとりこになって、現在も美術（特に仏像）に関心をもって鑑賞しています。

人生に与えた影響や意味

大正デモクラシーの影響と社会情勢の悪化という状況の中で育った私が女子大で学んだことは、学業の方はクラスメートが心配する（免許状が取得できるかの瀬戸際の成績を）状態だったが、人間の生きる道としての責任を（狭い範囲だったが）もってお互いに自由を尊重する（大学ではあまりにも温室的ではあったが）こと。社会に出た時には甘いと感じたが、教育問題始めいろいろの市民運動を通して、少しでも個人尊重の社会にな

ることを願って現在引き続き運動をしています。

後輩に伝えたいこと

視野を広げて、固執することなく情況判断を。戦前の教育勅語での教育を受けた後遺症で今日の政治の危機が敏感に感じとれますが、平和になじんだ世代の人達も関心をもって世論を高めてほしい。

数学専攻部 80歳

キリスト教主義の印象や記憶

安井先生の宗教の時間は大変熱心で心をうごかされることもあった。どんな宗教でも信じる者は強いなと感じた。

打ち込んでいたこと

数学が勉強したくて入学したのだから兎に角一生懸命勉強した。在学三年の時数学専攻部にだけ中等教員の無試験検定がなくて入学者もだんだん少なくなってきたので、一年上のクラスと私たちのクラスでその試験を受けることになり、先生も生徒も随分一生懸命にやったつもりである。昭和12年夏検定が下りた。

人生に与えた影響や意味

大学の勉強はあまり強制的でなく各自の自主性にまかせられたし、先生も大らかに自由一ぱいに教えて下さいましたし、第一、1クラスが6人という少ない人数で教育も十分ゆきわたって幸でした。子育てが一段落してからもう一度自分なりの勉強をしたので今80才になっても数学の問題をいじくって楽しんでいます。大学を出た孫から中3の孫まで7人数学は私が一手に引受けてやりましたし今もやっています。数学を勉強したことを私はとてもよかったと思いきな人生だったと思っています。

後輩に伝えたいこと

大学で勉強したことなんでもいいから一つ、年とるまでやって生きがいにして下さい。

第三世代（1940年～1944年卒業）

高等学部卒 75歳

キリスト教主義の印象や記憶

学校では当時生徒達への宗教について全く自由であったので、全校礼拝（週一回）には皆出席したが、朝の礼拝などに出る人はあまり多くなかったと思います。

打ち込んでいたこと

当時は太平洋戦争開戦の直前だった為、外人の教師は帰国されたり大きな制約があり、又卒業も眞珠湾攻撃等の為3ヶ月早まり12月末に卒業。でも学問を学ぶ楽しさは十分に味わう事が出来、特に篠遠喜人先生（後キリスト教大学長）のゼミで実験等楽しく学びました。

印象に残っていること

私の在学した頃はまだ安井哲学長が御存命で倫理をお教え頂きましたし、途中石原先生

に学長は引継がれましたが、先生方の立派な信仰者としての態度に感銘を受け、卒業後の私の考え方の土台をつくって頂いたと思います。礼拝の折も後には必ず刑事が立会ってをり、先生のお祈りの言葉にもいちいち天皇に対して不敬だと文句をつける有様でしたが、先生方は全く動ずる事なく対処しておられました。

人生に与えた影響や意味

在学中はそれ程わからなかったのですが、あとで考えますと当時高等学部は本当に人格的にも社会的にも又信仰的にも立派な先生にお教えを受ける事が出来、その事が現在の私につながっていると思います。卒業後同窓会「もより会」で聖書の学びをはじめ、牧師さんのお話を聞くようになり、教会へと結ばれました事はすべて神様のひいて下さったレールの上を歩む事が出来た幸せを思っています。教会内の同窓生の中にも深い交りがあり、信頼出来る後輩等与えられ、東京女子大に学ぶ事が出来た事を感謝の気持ちをもって過してをります。

後輩に伝えたいこと

安井先生が卒業の時色紙に書いて下さった言葉「世に勝つ勝利はわれらの信仰なり」の句が、当時信仰をもっていなかったので、戦争でうかれている国民への警鐘とのみ思っていました。最近の説教でヨハネの手紙の中の聖句である事がわかり、大変おくれればせの信徒ではありますが安井先生のお気持ちがはっきりわかり、うれしゅうございました。折角、キリスト教主義の大学なのですから、もっともっと信仰の大切さを生徒にわからせてあげたいと思います。それが人生にとってどれだけ大切なものであるかを。

高等学部卒 75歳

キリスト教主義の印象や記憶

学校では学生に対して特に強要するというような事はなかった。然し今から思えばもう少し深入りしておけばよかったと思っている。

打ち込んでいたこと

1年のころは植物学(篠遠先生の研究グループに入っていた)。2年生からは歴史、宗教、哲学等に興味を持つようになった。

印象に残っていること

もっと勉強したい、この学校で学びたいと思っていたのに、戦局は急を告げ、半年繰り上げ卒業させられて了った。然し、石原学長は希望者のために毎週金曜に「キリスト教史」の講義を続けて下さった、半年間、私より年上の従姉が思想問題で検挙された時の安井先生の御態度は実に御立派であったと思います。「信念を曲げるな」と。

人生に与えた影響や意味

「すべてまことなるもの」への志向は決定的となりました。神(眞実)を懼れ人を恐れず、権威に屈しないという精神を頂きました。之は私の人生にとって決定的な重大な意味を持っています。有り難いと感謝しています。それと良いクラスメート、お友達が実に良い方達なのです。今もずっと親しくしています。

英語専攻部卒 74歳

キリスト教主義の印象や記憶

予科時代一年間倫理の時間に接する事の出来た安井学長始め先生方が極めて真面目な方ばかりで、日々の生活できびしく自己を規制し信仰に生きていられる姿に心うたれて居りました。

打ち込んでいたこと

松岡勵子さんの指導で演劇部員として「大佛開眼」「病院船」などの芝居に出演させて頂き、とても楽しい思い出となっております。

英語専攻科の学生ですのに日本語の小説ばかり読んで居りました。現在同窓の皆さんと英語の本をよんで居りますが、英語を譯すにも日本語の教養の大切さがわかり、日本語の小説ばかり夢中でよんでいた事は決して無駄ではなかったと痛感して居ります。

印象に残っていること

Mrs. Iwamotoの授業で終始英語によるお講義を夢中でノートにとり授業後4,5人の仲間でノートのてらしあわせをやり、自分が意味のとれなかった部分をわかっている人があると感心したり、情けなかつたりのくりかえし。ノートを立派に仕上げる事にばかり一生懸命でした。又先生の作文の時間、間違ったところを訂正して出しても又色ちがいの鉛筆で訂正されそれを正して又訂正という具合に先生の手間をいとわぬ御指導に只只感激。一寸も一生懸命勉強しなかった我身をかえりみて後悔して居ります。

人生に与えた影響や意味

入学して間もなく戦争突入、外人の先生方はひきあげられ、英語を話す先生はミセス巖本とミセス小田のみになりましたが、随分自由な校風でしたので学校内に居るかぎり外の嵐に関係なく学生生活を楽しんで居りました。あんな幸福な日々を送る事の出来た事、感謝以外の何ものでもありません。美しいキャンパス、清潔な校舎、今思えば自宅からの通学で寮生活の出来なかった事がくやまれます。東京女子大で学んだ事は私の一生の宝物となりました。戦争中で物のない時、卒業式の宴会を旧体育館でおこないましたが、八つ手の葉に校庭でとれた「おじゃが」をふかしたものがのせられていたのが今でも目の前にうかびます。先輩の心づくしにうれしく頂きました。

後輩に伝えたいこと

年をとるにつれ物覚えのわるくなるのは仕方ないとは云え、勉強は若い時でなければ身につかない(特に語学は十代のうち)のですから何でも良いですから好きな勉強にうちこんでほしいと思います。東女の自由の気風は得がたいものです。自主判断をまかせられた以上責任があるわけです。

高等学部卒 73歳

印象に残っていること

私の在学中は戦争戦争でした。服装はもんぺ、チャペルは墨で塗られ、体育館は工場でした。後できいたことですが、石原謙学長は終始憲兵がついてみたという事をきき、一言もそのようなことにふれられなかった先生の御立派さに胸がつまります。安井先生が検挙された学生の帰りを門前にて待ちつづけられた話も感動しております。

人生に与えた影響や意味

戦争中も建学の精神をくずすことなく立派でした。先生方が謙虚な態度でいらした事も

印象に残っています。今も女子大のチャペルの塔を遠く見乍ら女子大に学べた事の感謝と誇りを持って、余生を生き度いと思って居ります。

高等学部卒 71歳

キリスト教主義の印象や記憶

規則書の最初に、「キリスト教主義による教育をする」とあったから、そのことは知っていたが、特に関心はなかった。(特に私の心にひびくことはなかった) 戦時中でもあるので、たまに軽い反発を感じることはあった。

打ち込んでいたこと

入学の前年に太平洋戦争がはじまった。卒業年度がくり上げになり(9月卒業)、たった2年半の間に勤労働員が何回もあり、3年になってからは、殆ど工場勤務だった。その間「勉学」以外の何に打ち込んでいられるだろう。しいて言えば、一人の兄を学徒兵として見送った身としては、「勤労働員」に頗る熱心だった。

印象に残っていること

入学して、まず感銘したのは、女性の先生方の「やわらかさ」だった。多くの方が、和服で「はかま」をつけず、帯付でいらした。それでいて、教えて下さる内容は、大変はつきりしていて、きびしかった。とてもリベラルな、よい印象をうけた。三上先生、松村先生、五端先生、北村先生など。

高等学部の特徴だったのだろうが、いろんな方面の、一流の先生方の講義をうけた。あとで考えるとずい分著名な方がいらして、そういう方々のかもし出す雰囲気「学問」というものの本質を語っていたように思う。

人生に与えた影響や意味

それまで読書などで育てられていたリベラルな傾向が、そのまま受け入れられ、深められたように思う。宗教的な意味からではなく、校章の「さあう`いすアンドさくりふあ`いす」(原文のママ)をナルホドと思い(実践目標には出来なかったが)、安井先生のいわれた(一度、全校礼拝でお話をされたことがある)女子大の「サムシング」を、貴重なものと思い、自分の中でも大切にしたい、と思った。

高等学部2年間の勉強は、決して深いものではなかったが、広くいろんな物ごとに関心を持つようになった、という意味で、今の私の職業にも大変、役立っている。実用面からも女子大に感謝している。

後輩に伝えたいこと

今の女子大を余り知らないのですが、特にいいたいことはない。園遊会などで見掛ける(手伝って下さる)若い人達は、大変やさしくて感じがよい。キャンパス内に建物ばかりがふえて、スロープ他のゆとりある緑地のへったことが、何より残念である。

数学専攻部卒 71歳

打ち込んでいたこと

学校以外では、語学の勉強、読書など。昭和20年戦争終了後は、学校外の組織でも、学校の中でも、自由に勉強することが出来、勉強する事は何でも楽しく打ち込んだと思う。

印象に残っていること

①昭和19年、学徒出陣の壮行会が(たしか神宮外苑だったかと思うが)あって、私共のクラスが全員出席した(そのとき私共のクラスの授業がなかったので学校の代表として)。その折出陣する学生の代表の人の挨拶の言葉、声音がまだ耳に強く残っている。この歴史的な一つの出来事に出席できた事はほんとによかったと思う。②戦争中の学校工場での毎日の生活、戦争後冬寒さにふるえながらオーバーなど着て、時に陽なたぼっこしながら授業を受けたこと。とにかく戦争が終り、勉強出来る様になった事の喜びは忘れられない。

人生に与えた影響や意味

学生のmottoであったservice, sacrificeという言葉は、卒業後私自身の生活のmottoとなった。その言葉はあまりにも重いと考えることもあったし、今も重く感じることもあるけれども、出来ることだけは護って行きたいと思う。キリスト教の信仰を得たいと、在学中も一生懸命教会に通った事もあったけれど、クリスチャンの信仰を自分のものに出出来ない私であるけれど、このmottoは大切にしていきたい。

後輩に伝えたいこと

東京女子大学の学生である事に誇りを持ち、そしてその誇りに値する様な高い水準の大学である様に努力すると共に、この昔からの大学の伝統を強く保つ様に努力してほしい…女子の大学で学んでこそ社会において女子がleadershipを持つ事を真に学べるのだと信じています。

第四世代 (1945年～1948年卒業)

高等学部卒 70歳

キリスト教主義の印象や記憶

戦時色の日毎に濃くなる時代に凍るような冬のチャペルの礼拝は心に燃えるような真理への求めを湧き上がらせ、寮生活でのパーラーでの毎夕の礼拝を守り得た思い出は印象的です。戦後聞いた事です、私に信仰の種をしっかりと植え付けられたチャペルが、戦時中、軍当局に接収されそうになり、当時の石原学長先生が特高にねらわれながら、生命をかけてチャペルを守り通された事を知らされ、主が生きておられるチャペルを大学の第一の誇りとしたいです。

打ち込んでいたこと

S18年入学後約1年間は授業も正常で様々なすばらしい先生方との出会いを経験し、その中でも木内先生のゼミに入り、学校周辺の観察に部員の仲間入りをし、先生をかこんで写したスナップにその頃の何事にも打ち込める喜びのが思い出されます。S19年には学徒動員令により校舎、体育館が学校工場と化し、岡田乾電池の炭素棒を作る機械等が持ち込まれ、毎日油と炭にまみれながら機械の操作に打ち込み、お国に役立っている誇りが学校に居ながらすばらしい先生方の授業が行われない不満をおさえつけていたようです。S20年に入ると寮から毎日、板橋十条の造兵廠に動員され友人達も皆、別れて配属され、そこでは学校とは全く異質の世界に立たされた驚きの日々でしたが、思いがけないあたたかい上司の方々や現場の人々のやさしい心遣いに出会い、大工場の厨

房の事務所でのカロリー計算の仕事は本当に打ち込み甲斐のある楽しい経験となりました。

印象に残っていること

S20年6月末から終戦の8月半ば迄過ごしました会津若松の栄町教会での女子大分校設立準備の先発隊としての日々が、2年半の在学期間中僅か2ヶ月間ですが、私にとり特に貴重な経験でした。中村先生、早坂先生を頼りに5人の仲間が栄町教会の会堂を借りて生活を共にし、内外の清掃、食料の買出し、燃料の薪とりに山へ入り、寮生活では思いもなかったきびしい労働の日々、でも丹牧師御夫妻、中村先生御一家、早坂先生御夫妻のあたたかい見守りの下故、5人の団結は固く、やれば出来る自信がこの時に与えられました。7月に入り度々、御憔悴された石原学長が来られ、私達に少しの間も惜しんで詩篇を講義して下さった御姿を思う度に「私達の歩みは主によって定められ、主はその行く道を喜ばれる（詩37:27）」の聖句を覚え、私にとって大切な出来事でした。

人生に与えた影響や意味

母校の門を入ると正面の建物に高くかかげられ、きざみこまれた「凡そまことなるもの」との出会いが私のその後の歩みを定め導いて下さいました。女子大で学問を学ぶ目的は殆ど達せられませんでした。決してくやんではおりません。その時その場でしか経験出来ない貴重な出来事や、多くの方々、特に恩師との交わりを通して、自分の人生になくはないものは唯一、聖書のみことばに従って歩むほかなしと示された母校での学びが、後に私共夫婦共に福祉の道に入り、体の不自由な人々と親しく生活を共にする得がたい体験につながった事を思い感謝せずにおれません。

後輩に伝えたいこと

女子大の校章が“*Servise and sacrifice*”を意味する事を再認識し、「受けるより与えるのが幸いである」とのみことばに従って歩む喜びを伝えたいです。私は50才を過ぎて身体障害者療護施設の職員となり3Kの仕事はたしかにきびしいものでしたが、入浴介助、排泄介助、夜勤の寝がえり介助など、入所者とのほだかのおつきあいを通して云い尽くせないあたたかい絆が結ばれ、退職後10年余りたちますが、体中で喜んで下さる方々を訪ねると元気づけられます。「犠牲と奉仕」は主イエスの御姿であり、私達はその御姿を仰ぎ見て進んで参りたいものです。

国語専攻部卒 69歳

キリスト教主義の印象や記憶

戦争末期で思想弾圧、国益（戦争遂行）一辺倒の時代にあって、当学はキリスト教は勿論、マルキスト（友人にかなりいた）達に対しても、全く寛大、自由であった。寮で唯物論学者の集会も自由に開き、多数参加していた。

打ち込んでいたこと

誰も諾否無用、戦争に協力させられた時代で、私共は学内に設けられた乾電池工場（体育館）で、文字通り真黒（カーボン）になってその生産に励まさせられた。日中は工場、夜は空襲で他に何をやる余力があるだろうか。終戦後、寮生は空腹で、買い出し、自炊などに追われ、少々の学業さえ怠りがちだった。

印象に残っていること

戦争体験—具体的には体育館の学校工場での就労、連日連夜の空襲、寮友の爆死、戦争末期・戦後の空腹—以上のすさまじい環境の中での、不似合いな当学の優しさ、おだや

かさ、心静かさ。

人生に与えた影響や意味

1. 学問の自由—学ぶため入学したが、学ぶ時間も、学ぶ資料も乏しく、「学ぶ」目的からは程遠い結果だったが、然し、いかなる環境にあっても学問の自由の貴重さを知った。
2. 人格の尊重—性別、信条、国籍等千差万別の人間もすべて、個人として尊重されるべきであること。(最も人間が虫けらに扱われた時代にあって、全くその反対を学んだこととなる。)

後輩に伝えたいこと

1. 東女の学問の自由と向学心は、他校に類の少ないものであるように思う。(当節「自由」は安価な手垢のついた看板になってしまったが、爆弾、焼夷弾の嵐の中で守られた自由もあること忘れないで欲しい。)
2. 東女の学生は熟慮、向学型だが、行動力(社会活動その他)面において、少し欠けているように思われる。社会に出ての積極的な行動力、組織活動力を学生時代から育て、欲しい。

専門部外国語科卒 69歳

キリスト教主義の印象や記憶

安井哲先生のご精神や特に、思想問題で刑務所に入った学生を毎日のように通って激勵され、しかも、その考えをすてるようにとは一度もおっしゃらなかった由、感銘をうけました。

打ち込んでいたこと

戦争末期を敗戦と重なっておりましたので、生きて行く事が大へんな時期でした。空襲を受けながら、海軍水路部の地図作りを西校舎の一教室でしていました。一時、父の任地ソウルへ行って一年休学の後復学、寮生活もしましたが、その寮は食料不足のため6月から7、8月閉鎖という事態でもあった位で打ち込んだのは何とか食べる事でした。そのような中、天達先生のシェクスピア、加納先生や中野好夫先生の英文学史、石村先生の源氏物語、松村緑先生の明治文学、その他、心理学、論理学の初歩の初歩をかじった事などが、後々印象に残っています。

印象に残っていること

大へん偉くて、遠い遠い存在と思っていた学長の石原謙先生と寮生同志の友好のため、長岡師範迄行ったこと。専任又講師として女子大で教えて頂いた先生方の中に、本当に、ご自分の学問を愛し、あの悪い時代にも、研鑽を続け、そのよろこびを学生達に伝えようと、一生けんめいに教えて下さった方々が、何人もいらして、その先生方に接しられた事が、私の人生に大きい影響があったと今も思っています。

人生に与えた影響や意味

私はもともと学問的でも、頭がよくもなく、努力家でもない、平々凡々なうまれつきですが、校歌にもある、永遠に真理の扉をたたく「旅人」という自覚、という大へんな事になりますが、この世にはすばらしい学問の世界がある、私はその入り口をのぞかせてもらっただけ、もっと知りたい、もっときわめたいと心がはずんでいた。いろいろな経験をして、ここ迄来て、この情報あふれる時代を迎えましたが、自分で見て、考えて、自分の道を進められるかな、自分の限界を知り、相手の考え方をみとめて尊敬もし、興味もおぼえ、明日は又どんな発見があるのか、めぐり合いがあるのか、楽しんでいる…

そんな自分を意識しますと、もとは女子大にあるように思えます。—（と云ってあらゆる面に自信はさらさらないのですけどね、年とっていよいよその感ふかいです）—
後輩に伝えたいこと

年代の違う方々にはびっくりしたり共感できない事もありますが、実にすばらしい力も発揮されるという事、屢々見聞しますね。楽しいことです。

専門部数学科卒 68歳

キリスト教主義の印象や記憶

礼拝堂の礼拝、先生や先輩方、友人たちとの交わりを通して与えられた多くのもの、特に真理を愛する心。

打ち込んでいたこと

敗戦の年に入学した私にとっては、女子大の生活に打ち込むというよりは、生きること、にせい一杯で、本当に積極的には、何にもしなかったと言えるのではないのでしょうか。

印象に残っていること

私が寮に入った時、大槻トシ先生の言われた言葉が今も大きく心の中に残されています。それは「人間は一人にならなければ本当の大人になれない」との言葉でした。寮の一人部屋で淋しくてオロオロしている私にとって、人間を越えた存在と向き合うことの意味を知らされた、非常に貴重な体験だったと思います。それと、地方から出て来て頼る親戚もなく、食物、衣類にも事欠く私に、東京の同級生たちのどんなに助けて下さったかを決して忘れることができません。お会いする度に心から感謝をするのみです。ただ皆に助けられて、何とか卒業できただけで東京女子大学の卒業生として下さることの重味を常に感謝しています。

人生に与えた影響や意味

上に書きましたように、戦中、戦後にわたる東京女子大学での生活で具体的な学びは十分できなかったのは当然ですが、しかし、東京女子大学でなければ与えられない大切なものを与えられていること、そして、それが卒業後の私の人生に大きく常に影響を与えていることを確信します。それは「真理を愛する」心だと言えるでしょう。そしてこれは、他の何物よりも大切なものではないのでしょうか。

後輩に伝えたいこと

卒業後50年近い年月を経て今しみじみ思うことは、今迄たどってきた一つ一つのこと、それは挫折や回り道としか思えないようなことも、凡て意味があったという事です。大学での学びはそれで完結するものではなく、今後の生涯における「真実を求める心」を与えられることにおいて重大な意味を持つと思います。自分の問題を一生持ちつづけて下さい。

専門部国語科卒 67歳

キリスト教主義の印象や記憶

大学に入学したのが終戦の年ですから、あのステンドグラスのチャペルに坐っているだけで心の静謐を得られた。また、戦災で家を失っていたので、寮生活中に、いろいろ素晴らしい経験をした。（例えばクリスマスを迎える朝、上級生が寮のまわりを讚美歌を唄いながらまわって下さるのを、ベッドの中で聴くなど、まるで物語りの中にいるように

感動したものです。)

打ち込んでいたこと

文学 (ことに現代文学), 朗読 (詩の朗読, 他)

印象に残っていること

私共の世代は終戦直後のこともあって、同じ級の中に、前年度の入学者、本年度の入学者 (それも戦争のため女学校4年卒業、女学校5年卒業) とかなり雑多な生徒の集まりでした。年令も実力もまちまちでしたから (その上教科書となるべき書籍も古本屋で個人個人探して買ってくるという状態でした), あまりよい授業を受けられたという記憶はありません。ただ、戦後の自由の美しい輝きを惜しみなくあたえてくれた学校であったことに感謝しています。私自身は東京女子大の新聞部幹事長として編集にたずさわりました。

人生に与えた影響や意味

小学生時代に戦争がはじまり、終戦の年に女子大入学という人生ですから、未だにいつも自分の求めるところにつきすすんでいるという感じで、どのような影響を…と客観的にたしかめる力がありません。ただ、戦争という荒波に翻弄された小学校、中学校生活のあと、東京女子大学で学んだ三年間は、何の色にも染まらない透明な時間でした。そこには、凡ゆる可能性がありました。(これは、すばらしいことだと思います。) 殊に当時学長の石原謙先生、文学部の西尾実先生には感謝しています。

後輩に伝えたいこと

女子大在学中に新聞部に籍を置いていた訳ですが、当時は谷川徹三氏などに原稿を依頼して書いていただくなど熱意に燃えながら編集をしていました。先年 (何年か前になりますが), ある機会に現代の女子大新聞を見て、とてもがっかりしました。時代の風潮に乗って軽さと遊びとがいりまじっているような紙面でした。私はフランスの音楽を仕事にした関係もあって、フランス人のもつ“anticonformisme” (反画一主義), 大勢に順応しないという心をととても大切にしています。時代の風潮に乗って、皆、同じように、同じ方向に進んでしまうということは、それはなかなか危険をはらんだことだということを知ってほしい。私の経験した戦争も、はじめは何気なく皆と声をあわせている中に、いつのまにか巨大な波となり、もう岸边にはもどれなくなったのですから。若い中にこそ、自分の視点を大切に! 群をなして、画一主義におちこまぬように!

専門部数学科卒 67歳

キリスト教主義の印象や記憶

戦時中、および直後の石原先生、矢内原先生、その他の話。

打ち込んでいたこと

学生運動、学生自治会活動、西寮委員長などは、打ち込んでやったことです。終戦後すぐは、講演会 (日比谷公会堂などでの) や映画 (アメリカ・ロシアなどの)・演劇・音楽会などにせっせと通いました。読書も自由になったので、随分あさって読みました。毎日が楽しく、有意義に活動的な毎日でした。(勉強は落第すれすれ、泥縄でこなしました。)

印象に残っていること

①戦時中に入学しましたが、授業は殆どなく、寮で夜、上級生が燈下管制下のパーラー

で、先生方をおよびして開いていた講義をもぐって聞いていました。辰野隆先生、木村健康先生、その他、戦時下で、まあこういう話が聞けたことは、とても驚きでもあり、喜びでもありました。どういう方たちが開いていたのかはわかりませんでした。

②空襲下の西寮前の防空壕の中で、上級生（歴史科の人）が、「この戦争はまちがっている。もうすぐ日本は負ける」と話して下さったのは感激的でした。

人生に与えた影響や意味

よい先生（天達先生・中谷先生・宮本敏雄先生・玉川先生・川崎先生（歴史））に出あえたこと。よい友人（先輩を含む）に恵まれたこと。寮生活が出来たこと。そうした人間関係でよかったと思っています。設問の趣旨に沿うような漠然とした東京女子大学（キリスト教系）という意味ではあまり影響はなかったと思いますが、他大学出身者と接して話を聞くと、やはり違うなあと思います。

後輩に伝えたいこと

時代が違うし、各個人の自由だから、特に後輩に伝えたいことなどはありません。（こういう設問には好意がもてません。）

専門部国語科卒 67歳

キリスト教主義の印象や記憶

軍国主義で育った私にはキリスト教はまったくわかりませんでした。ただ、先輩方にかがった教育者としての安井先生のお人柄に大きな感銘を受けました。

打ち込んでいたこと

歌舞伎に熱中していました。敗戦直後の混乱と荒廃の中で、過去の一切を否定する風潮がありましたが、日本にまだこんなすばらしいものが残っていたという感動でのめり込んだようです。

印象に残っていること

①生涯の友と思っていた親友が、ご家庭の事情で結婚のため中途退学されたことが、大きなショックでした。

②昭和20年、女子に参政権が与えられ、翌年の総選挙をひかえて、学友会（？）の主催で各党の代表者の講演会が行われましたが、共産党からこられた故宮本百合子女史の講演に、当時まだ軍国主義を払拭しきれなかった私は、根底から揺り動かされたような感動をおぼえました。

人生に与えた影響や意味

入学したのは敗戦の年でした。女学校時代から勤労働員で、いわば一つの軍需工場から、別の軍需工場に移っただけという状態でした。敗戦後も、食糧事情から休校が続き、再開後もテキストも参考書もノートさえ手に入らない有様で、学ぶにはまことに不如意な時代でした。別の時代だったらどんなによかったかと思うこともありますが、それでも女子大に学んだということが、その後の人生でやはり大きな支えになっていたような気がします。

後輩に伝えたいこと

としをとりますと、同性のいいお友達の存在が、かけがいのない精神的な財産だという気が、切実にいたします。どうぞ在学中にいいお友達をお作り下さいますように。